



工学研究科長 就任にあたって

工学研究科長・工学部長
総長参与
電気電子情報工学専攻・教授
馬場口 登

令和元年8月26日に工学研究科長・工学部長を拝命致しました。前工学研究科長の田中敏宏先生（現、副学長理事）の下で、平成27年8月より4年間、教育研究評議員を務め、全学、工学研究科の管理運営の一端に携わる一方、学外では八大学工学系連合会の運営委員として提言作成等に関与致しました。

田中先生の時代には、工学部創始120周年事業、センテラスの新営など、多くの成果が成し遂げられました。とりわけ、令和2年度に実施される工学研究科（大学院）の改組は、田中先生が心血を注ぎ構想されたもので、将来の工学研究科の発展の礎となるものと確信しております。学理に基づく9専攻に再編集約するとともに、産学官共創コースと英語コースを全ての専攻に整備する計画です。さらに特筆すべきは、テクノアリーナと名付けた柔軟な構造を有する新たな教育研究体制の構築であり、喫緊の社会課題に挑戦し、イノベーションを創出していきます。

大阪大学工学部/工学研究科は、いまや、学部生820名、大学院生（修士）790名が入学してくる我が国有数の規模となりました。そして、学部や大学院を出て社会に巣立つ卒業生の数は毎年おおよそ1000名です。我々は、卒業後も末永く阪大工学部を愛せる学生、つまり工学部シンバの育成を真剣に考えねばなりません。シンバが多ければ多いほど、大学に良いフィードバックが何らかの形であるはずで、このシンバ育成の第一歩として、講義や研究室活動を通じて、学生諸君が、阪大工学部の現在の姿、将来のビジョンを理解するのに加えて、120年の伝統と歴史の中で自分自身が存在していることの重要性、希少性を認識してもらいたく思います。

今の学生は、阪大のアセットである強大なヒューマンネットワークを知らぬまま卒業することが多く、社会における競争でもハンディを負うことになりかねません。シンバが工学部ネットワークの活動的なメンバーになり、ブランド力向上の一端を担ってくれることを願っています。ネットワークの作り方は系や学科によってそれぞれ特色があり、それらを活かしつつ、工学部という大枠で実行可能な仕掛けを大阪大学工業会や各系の同窓会と一緒に追求したいと思います。最後になりましたが、本会のご支援ご協力を心からお願いする次第です。



工学研究科長 退任にあたり

大阪大学統括理事・副学長
田中 敏宏

平成27（2015）年8月26日から4年間、工学研究科長・工学部長を務めさせていただき、令和元年（2019）年8月25日、その職務を終え、翌日の8月26日から大阪大学・教育研究・総務担当の統括理事・副学長に就任いたしました。

工学研究科長就任中は、大阪大学工業会の皆様から多大なるご支援、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。特に、平成28（2016）年には、工学部創始120周年を迎え、それを記念して設立しました福利厚生棟（センテラス棟）の建築に際しましては、大阪大学工業会様から多大なる経済的ご支援をいただき、平成29年4月に竣工記念並びに工学部創始120周年記念式典を開催することができました。この場をお借りし、改めて心から感謝申し上げます。センテラス（Central Terrace）という名前は、公募を行い、博士課程の学生さんの発案によるネーミングで、福利厚生棟が、工学部のキャンパスの丁度中央に位置し、人々が集まり、太陽のようにいつも輝き、皆さんの活動を明るく照らすという意味をもっておりまして、その名の通り、6階建ての建物は、工学部の中央で光り輝く活発な活動の場として利用されております。3階には、大阪大学工業会の事務局を平成29年3月からお迎えし、多数の卒業生の方にもキャンパスを訪れる拠点としてお立ち寄りいただき、工学部・工学研究科の構成員との接点にもなっています。また、センテラス棟の3階には、センテラスサロンを開設し、美術品を常時展示させていただき、美術館を兼ねた憩いの場としての役割も果たしております。また、大先輩の大川進一郎様のご厚意により、平成30（2018）年5月にグランドピアノをご寄贈いただきました。このピアノを大いに活用させていただき、同年5月からPremium Friday for Engineeringという会を催しております。2か月に一度程度、金曜日の夕方、ワインも楽しみながら、教職員が気軽に楽しめる音楽会・講演会を開催しています。また、センテラス棟の4-6階には、大阪大学の代表的な活動である産学連携の「共同研究講座」、「協働研究所」制度にご参画いただいております企業様に入居していただき、100%の入居稼働率で運用させていただいております。まさに、センテラス棟を中心に、今や工学部・工学研究科が動いていると言っても過言ではありません。これもひとえに、大阪大学工業会の皆様方からのご支援のお陰です。上記の通り、120周年を記念して設立されましたセンテラス棟ですが、工学部が創始して、60年の還暦の節目を2度経験したことになり、これも卒業生の皆様が学内外、さらには日本の国内外で大活躍されたおかげで、当初の官立大阪工業学校から現在の大阪大学工学部に発展することができました。現役教員の私共は先輩の築かれた業績の上に只々立っているだけですが、次の60年先に向け、引き続き、様々な改革を進めてまいります。来年2020年4月からは、新たな大学院の活動が始まり、研究科長の馬場口先生のリーダーシップのもと、さらなる工学研究科の展開が期待されております。引き続き、工学研究科へのご支援・ご厚情をお願いし、退任のご挨拶とさせていただきます。4年間、ほんとうにありがとうございました。